

公益社団法人 日本経営工学会
第 32 期第 11 回理事会議事録

日 時：平成 27 年 3 月 14 日（土），15:00～18:00

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5F 大会議室

出席者：（理事）河野宏和，高橋勝彦，二ノ宮滋，篠田心治，西口宏美，伊呂原隆，
中出康一，熊谷敏，有菌育生，皆川健多郎

（監事）開沼泰隆

欠席者：（理事）松林伸生，後藤正幸，石井和克，

（監事）水山元

議決事項

1. 第 32 期第 10 回理事会議事録の確認の件

庶務担当理事より，（資料:11-1）に基づき第 32 期第 10 回理事会議事録（案）が提示され，全会一致で承認された。

2. 入会，会員権利喪失承認の件

会員担当理事より，（資料:11-2-2）に基づき，4 月 1 日付の正会員 5 名，学生会員 12 名の入会申請が報告され，全会一致で承認された。また，（資料:11-2-3）に基づき，会費滞納による会員資格喪失者が報告され，全会一致で承認された。会員資格喪失者数の増減について質問があり，毎年減少傾向にあるものの，会員総数が減少しているためであり，総数に対する割合としては大きな変化は見られない旨の説明があった。あわせて，（資料:11-2-1）に基づき，平成 26 年度会員異動報告がなされた。

3. 名誉会員推薦候補者の件

会員担当理事より，（資料:11-3）に基づき，今年度は名誉会員推薦の条件を満たす会員がいなかったことが報告され，全会一致で承認された。

4. 平成 27 年度事業計画の件

庶務担当理事より，（資料:11-4）に基づき，平成 27 年度事業計画が報告された。会誌の発行部数について，会員数減少にあわせて 100 部ずつ減らしたことが確認された。報告事項 5「2015 年秋季大会について」において報告される秋季大会の日程変更を含めて全会一致で承認された。

5. 平成 27 年度予算案の件

財務担当理事より，（資料:11-5）に基づき，1,401,249 円の赤字となる平成 27 年度予算が報告された。監事より，赤字予算について(1)会員に対してなぜ赤字になるかという理由を説明する必要がある，(2)決算時に予算が消化し切れず結果的に黒字になるということは予算管理がうまくいっていないという指摘があった。会長より，(1)について，現時点では研究部門や支部で収益を目的とした活動を行っておらず，活性化を目指し講師の招聘等を行うと支出が増え，余分な支出を削った上でこの赤字予算に抑えることができていること，最初はコストがかかるが現在赤字となっている活動を通して大会の OS や論文投稿，企業連携に結び付く動きが出てきており，今後の黒字化への貢献を期待している一方で，このまま収益増に結び付かず，会員減少に歯止めがかからなければ経営システム誌や支部，研究部門といった活動を縮小せざるを得なくなるだろうという考えが示され，(2)については，今年度は想定以上に論文の投稿数が多く投稿料収入が増加したことが大きく，支部や研究部門での予算未消化は支部間ジョイント企画等で今後減っていくという見解が示された。これを受けて監事より，黒字分は特定費用準備金として使途が制限されるため，理事会として予算管理を徹底していくことが求められた。

総括として，支部や研究部門の活動環境も整ってきたことから，平成 27 年度予算については 100%消化するように活動し成果を会誌や大会で報告していくこととし，投稿料収入見込みの増額や支出削減により予算案上の収入支出の均衡化を図ることはせず，総会等で実態を適切に表した予算案であることを今後の展望とともに説明し，理解を求めるという意向が示された。収入の案として，論文誌の特集号を組むと投稿数が大きく増えるためこれを活用することや，Best Presentation Award の創設により学生会員の入会者数増が見込めるとの意見があった。議論の結果，期中の執行推移を注視し，特に赤字が増えないように理事会で予算管理を行っていくこととし，

予算案として認めることが全会一致で承認された。

6. 平成 26 年度表彰の件

表彰担当理事より、(資料:11-6)に基づき、平成 26 年度の学会賞（学術）、学会賞（功労）、論文賞、論文奨励賞、実践賞、経営システム賞および優秀学生賞の受賞候補者が報告され、全会一致で承認された。

7. 表彰規則改定の件

表彰担当理事より、(資料:11-7)に基づき、表彰規則改定について、前回理事会にて指摘された点の修正が報告され、全会一致で承認された。

8. 特別賞細則改定の件

表彰担当理事より、(資料:11-8)に基づき、特別賞細則改定について、前回理事会にて指摘された点の修正、意見の反映が報告され、以下の点を中心に議論された。(1)賞名に Student を入れ学生が対象の賞であることを明確にすべきではないかという意見があったが、賞名には入れずホームページに公開する際に賞の概要とともに周知することとした。(2)対象者の条件については発表時点で理事会承認以外の入会手続き、即ち入会申請と入会金年会費の支払いが完了している必要があることが確認され、発表までに入会手続きが完了していることという条件を加筆することとした。(3)入会申請を条件に含めることで非会員（学生）でも発表できるという雰囲気は損なわれるのではないかという懸念が示されたが、反面、学生会員の増加という狙いがあるため問題はないことが確認された。また、特別賞細則の条文について文言修正の指摘があり、これを修正することとした。議論の結果、全会一致で承認された。

9. その他

なし

協議事項

1. 平成 27 年度通常総会の開催について

庶務担当理事より、(資料:11-9)に基づき、平成 27 年度通常総会の開催について、報告事項 2「内閣府による学会立ち入り検査の報告について」にて報告される内閣府の立ち入り検査において、事業報告及び収支決算報告の承認を行う理事会から総会までに 14 日以上の間隔を空けるよう指摘があったため、総会開催を 5 月 30 日に遅らせることに関して協議した。理事会開催を前倒しすることでこれまで通り総会を大会と同日開催する方法の検討が行われたが、理事会開催を早めると監査が間に合わないことから、総会を 5 月 30 日に開催することが全会一致で承認された。なお表彰については大会 1 日目のネットワーキング前に授与式を行うこととした。

2. その他

なし

報告事項

1. 会員担当理事に代わり庶務担当理事より、(資料:11-2)に基づき、退会について報告がなされた。
2. 財務担当理事より、(資料:11-10)に基づき、内閣府による学会立ち入り検査について報告がなされた。
3. 財務担当理事より、(資料:11-11)に基づき、平成 26 年度第 3 四半期決算について報告がなされた。
4. 庶務担当理事より、(資料:11-12)に基づき、第 33 期役員及び代議員の選挙結果について報告がなされた。
5. 大会担当理事より、(資料:11-13)に基づき、2015 年秋季大会について報告がなされた。
6. 企画行事担当理事より、(資料:11-14)に基づき、27 年度実施計画について報告がなされた。
7. 会長より、(資料:11-15)に基づき、横幹連合開始掲載原稿について報告がなされた。
8. 人材育成担当理事より、(資料:11-16)に基づき、2014 年度実践教育プログラム実施報告について報告がなされた。
9. 活性化担当副会長より、(資料:11-17)に基づき、2015 年春季大会・企業事例セッションの準備

状況について報告がなされた。検討中となっていたコメンテータが決定となったこともあわせて報告された。

10. 渉外担当理事より、(資料:11-18)に基づき、協賛行事他委員会報告事項について報告がなされた。
11. 編集担当理事に代わって庶務担当理事より、(資料:11-19)に基づき、掲載料・別刷代請求一覧について報告がなされた。
12. その他
 - 活性化担当副会長より、(別紙:11-20)に基づき、日本 IE 協会のモノづくりフォーラム『モノづくりの真価追求』開催について報告がなされた。
 - 会長より、新旧役員（候補者）懇談会を 2015 年春季大会 2 日目午後を開催する予定であることの報告がなされた。

※次回第 32 期第 12 回理事会は、平成 27 年 5 月 15 日（金）17:00～20:00、慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館 5 階大会議室にて開催する。

議 長 河野 宏和 印

議事録署名人 開沼 泰隆 印